

S/N 10/660223

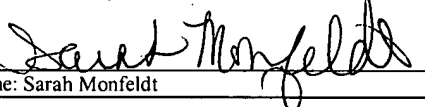
PATENT

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Applicant:	ICHIHARA et al.	Examiner:	unknown
Serial No.:	10/660223	Group Art Unit:	3617
Filed:	September 10, 2003	Docket No.:	14470.0002US01
Title:	SMALL-SIZED SURFACE BOAT		

CERTIFICATE UNDER 37 CFR 1.8:

I hereby certify that this correspondence is being deposited with the United States Postal Service as first class mail, with sufficient postage, in an envelope addressed to: Commissioner for Patents, Mail Stop MISSING PARTS, P.O. Box 1450, Alexandria, VA 22313-1450 on January 21, 2004.

By: 
Name: Sarah Monfeldt

SUBMISSION OF PRIORITY DOCUMENT

Mail Stop MISSING PARTS
Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

Dear Sir:

Applicants enclose herewith one certified copy of a Japanese application, Serial No. 2002-264967, filed September 11, 2002, the right of priority of which is claimed under 35 U.S.C. § 119.

Respectfully submitted,

MERCHANT & GOULD P.C.
P.O. Box 2903
Minneapolis, Minnesota 55402-0903
(612) 332-5300

23552

PATENT TRADEMARK OFFICE

Dated: January 21, 2004

By: 

Curtis B. Hamre
Reg. No. 29,165

CBH:mmm

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 2 年 9 月 1 1 日
Date of Application:

出 願 番 号 特 願 2 0 0 2 - 2 6 4 9 6 7
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 2 - 2 6 4 9 6 7]

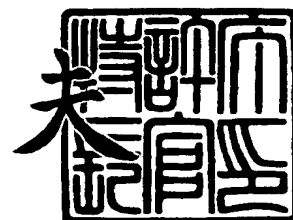
出 願 人 本 田 技 研 工 業 株 式 会 社
Applicant(s):



2 0 0 3 年 8 月 1 8 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康



出証番号 出証特 2 0 0 3 - 3 0 6 6 8 9 6

【書類名】 特許願

【整理番号】 H102181401

【提出日】 平成14年 9月11日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 B63B 35/73

【発明者】

 【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

 【氏名】 市原 慶一

【発明者】

 【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

 【氏名】 大前 陽

【発明者】

 【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研究所内

 【氏名】 野田 喜章

【特許出願人】

 【識別番号】 000005326

 【氏名又は名称】 本田技研工業株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100067356

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 下田 容一郎

【選任した代理人】

 【識別番号】 100094020

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 田宮 寛祉

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 004466

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9723773

【包括委任状番号】 0011844

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 小型水上艇

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 艇体上面を構成するデッキの中央に前後に延びるシートを設け、このシートの後方で、かつデッキの後端部に略水平な平坦部を設けるとともに、平坦部の前端から前方に向けて上り勾配に斜面部を形成し、斜面部の前端に、艇体の後方から手を延ばして指を掛けることのできる指掛け溝を一体形成したことを特徴とする小型水上艇。

【請求項 2】 前記指掛け溝の底面のレベルを前記平坦部と同一もしくは高くし、かつ指掛け溝の両端から左右側の斜め溝部を平坦部まで延長することで指掛け溝に溜まる水を平坦部まで流すように構成したことを特徴とする請求項 1 記載の小型水上艇。

【請求項 3】 前記斜面部と前記シートとの間にカバーを取り付け、このカバーを斜面部と略面一とするとともに、斜面部と略同じ傾斜に形成し、このカバーの下方の部位に前記デッキの下方空間へ通じる開口を設けたことを特徴とする請求項 1 記載の小型水上艇。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、乗員が水面から乗船する際に、乗員の指を掛ける指掛け部を艇体に設けた小型水上艇に関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

乗員が水面から小型水上艇に乗船する際に手を掛ける段部や手掛けが知られている（例えば、特許文献 1 参照。）。

【0 0 0 3】

【特許文献 1】

特許第 2 8 4 9 5 7 8 号公報（第 2 頁、図 2）

【0 0 0 4】

以上の特許文献1を図面を参照の上、詳しく説明する。

図8は従来の小型水上艇を示す側面図である。小型水上艇100には、乗員101が水面102から乗船できるように、小型水上艇100後部のシート103近傍に段部104を備えるとともに、小型水上艇100側部で、かつシート103近傍の立壁105に手掛け106を備える。

【0005】

乗員101が水面102から小型水上艇100に乗船する際には、左手108を延ばして段部104に掛けるとともに、右手109を延ばして手掛け106に掛ける。乗員101は、手掛け106を手掛かりにして身体を水面102から持ち上げて、小型水上艇100に乗船することができる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、従来の小型水上艇100では、段部104をシート103の近傍に備えたので、段部104の位置が水面102aから高くなりすぎる。また、手掛け106を小型水上艇100側部でシート103近傍に備えたので、手掛け106の位置が乗員101から遠くなりすぎる。

【0007】

よって、乗員101が水面102から左右の手108, 109を延ばしても段部104や手掛け106に左右の手108, 109が届き難い。乗員101は段部104や手掛け106に左右の手108, 109を簡単に掛けることができないので、乗員101は小型水上艇100に簡単に乗船することができない。

【0008】

さらに、手掛け106をデッキ100aの上方に取り付けたので、乗員101がデッキ100a上を移動するときに手掛け106が乗員101の邪魔になることがある。

加えて、小型水上艇100の立壁105に手掛け106を設けるためには、手掛け106を単体で形成し、この手掛け106を立壁105の取付開口（図示せず）にセットした後、手掛け106をビス45で立壁105に取り付ける。

このように、手掛け106を立壁105とは別部材で構成するので、部品点数

が多くなる。さらに、部品点数が多くなるので製造工程が煩雑になり、生産性を高める妨げになる。

【0009】

そこで、本発明の目的は、乗員が水面から簡単に乗船することでき、さらに乗員の邪魔になることがなく、加えて部品点数を減らすことができる小型水上艇を提供することにある。

【0010】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために請求項1は、艇体上面を構成するデッキの中央に前後に延びるシートを設け、このシートの後方で、かつデッキの後端部に略水平な平坦部を設けるとともに、平坦部の前端から前方に向けて上り勾配に斜面部を形成し、斜面部の前端に、艇体の後方から手を延ばして指を掛けることのできる指掛け溝を一体形成したことを特徴とする。

【0011】

デッキの後端部に略水平に延びる平坦部を設け、平坦部から前方に延びる斜面部の途中に指掛け溝を設けた。よって、指掛け溝を水面に比較的近い位置に設けることができる。

このように、デッキの後端部に平坦部を形成し、水面に比較的近い位置に指掛け溝を形成したので、乗員は艇体後方の水面から手を延ばして指掛け溝に簡単に指を掛けることができる。

【0012】

さらに、乗員が指を掛けるための指掛け部を溝の形態としたので、指掛け溝をデッキから上方に突出させないようにできる。

加えて、指掛け溝を斜面部に一体形成したので、部品点数を減らすことができる。

【0013】

請求項2は、指掛け溝の底面のレベルを前記平坦部と同一もしくは高くし、かつ指掛け溝の両端から左右側の斜め溝部を平坦部まで延長することで指掛け溝に溜まる水を平坦部まで流すように構成したことを特徴とする。

【0014】

指掛け溝の底面のレベルを平坦部と同一もしくは高くして、指掛け溝の両端を平坦部まで延長した。よって、指掛け溝に水が侵入しても、侵入した水を指掛け溝の両端から平坦部まで流すことができ、指掛け溝からの排水を促すことができる。

【0015】

請求項3は、斜面部と前記シートとの間にカバーを取り付け、このカバーを斜面部と略面一とするとともに、斜面部と略同じ傾斜に形成し、このカバーの下方の部位に前記デッキの下方空間へ通じる開口を設けたことを特徴とする。

【0016】

指掛け溝より上方の部位をカバーで構成することにより、斜面部およびカバーを、平坦部からシートに向けて上り勾配で延びる連続した傾斜面とすることができる。これにより、乗員が指掛け溝に指を掛けて水面から平坦部まで身体を持ち上げた後、平坦部からカバーに沿ってシートまで身体を容易に移動させることができる。

【0017】

また、カバーの下方にデッキの下方空間へ通じる開口を設けたので、この開口を利用することによりデッキの下方空間に配置した機器類のメンテナンスをおこなうことができる。

【0018】**【発明の実施の形態】**

本発明の実施の形態を添付図に基づいて以下に説明する。ここで、「前」、「後」、「左」、「右」は運転者から見た方向に従う。なお、図面は符号の向きに見るものとする。

図1は本発明に係る小型水上艇を示す側面図である。

小型水上艇10は、艇体11の前部12に燃料タンク13を設け、この燃料タンク13の後方にエンジン14を設け、このエンジン14の後方の艇尾15にジェット推進機室16を設け、このジェット推進機室16にウォータージェット推進機17を設け、このウォータージェット推進機17の後方にステアリングノズ

ル 18 を備え、このステアリングノズル 18 を操作する操舵ハンドル 19 を燃料タンク 13 の上方に設け、操舵ハンドル 19 の後方で、かつ艇体 11 の上面を構成するデッキ 20 の中央に前後に延びるシート 21 を設け、シート 21 の後方で、かつデッキ 20 の後端部 20 a から前方に向けて略水平に延びる後平坦部（平坦部） 22 を設け、この後平坦部 22 の前端中央（前端） 22 a からシート 21 に向けて上がり勾配の斜面部 24 を設け、斜面部 24 の前端部 24 a に指掛け溝 26（図 2 参照）を設け、指掛け溝 26 とシート 21 との間にカバー 27 を設けたものである。

【0019】

ウォータージェット推進機 17 は、艇体 11 の艇底 28 に吸込口 29 を形成し、この吸込口 29 をジェット推進機室 16 まで延ばし、ジェット推進機室 16 の壁部（ステータプレート） 30 に円筒状のステータ 31 を設け、このステータ 31 内にインペラ 32 を配置し、このインペラ 32 のシャフト 33 に駆動シャフト 34 を連結したものである。

駆動シャフト 34 は、前端をエンジン 14 に連結することでエンジン 14 の駆動力を出力する軸である。

【0020】

小型水上艇 10 によれば、エンジン 14 で駆動シャフト 34 を回転することにより、シャフト 33 を介してインペラ 32 を回転することができる。インペラ 32 が回転することにより、吸込口 29 から水を吸い込んで、ステータ 31 内に導くことができる。

【0021】

導いた水をステータ 31 後端のジェットノズル 35 を経て、ステアリングノズル 18 に導き、ステアリングノズル 18 の後端から水ジェットとして後方に向けて噴射することができる。このジェット水を利用して小型水上艇 10 を推進させることができる。

【0022】

図 2 は本発明に係る小型水上艇の要部を示す斜視図である。

小型水上艇 10 は、デッキ 20 の後端部 20 a から前方に向けて後平坦部 22

を略水平に延ばし、すなわちデッキ 20 の後端部 20 a に略水平な後平坦部 22 を設け、後平坦部 22 の左端 22 b からデッキ 20 の左側縁 20 b に沿って左平坦部 36 を前方に向けて略水平に延ばし、後平坦部 22 の右端 22 c からデッキ 20 の右側縁 20 c に沿って右平坦部 37 を前方に向けて略水平に延ばし、後平坦部 22 の前端中央（前端） 22 a からシート 21（図 1 参考）に向けて上がり勾配の斜面部 24 を設け、斜面部 24 の前端部 24 a に指掛け溝 26 を設けたものである。

【0023】

後平坦部 22 および左右の平坦部 36, 37 は、それぞれの平坦幅 W1 を略一定に形成するとともに、それぞれの表面を面一に形成した部位である。後平坦部 22 および左右の平坦部 36, 37 は、乗員の移動に使用することができ、加えてコーションマークなどを貼り付ける部位としても有効利用することができる。

【0024】

斜面部 24 は、艇体 11 の前方に向けて比較的緩やかな傾斜に形成し、その前端部 24 a に、デッキ 20 の後端部 20 a 側に寄せて指掛け溝 26 を一体成形したものである。

指掛け溝 26 を比較的緩やかな傾斜の斜面部 24 に形成し、さらにデッキ 20 の後端部 20 a 側に寄せて設けたので、艇体 11 の後方、すなわちデッキ 20 の後端部 20 a から手を延ばして指掛け溝 26 に指を掛けることが容易になる。

さらに、斜面部 24 に指掛け溝 26 を一体成形することで、部品点数を減らすことができる。さらに部品点数を減らすことで製造工程の簡素化を図ることができる。

【0025】

指掛け溝 26 は、デッキ 20 の後端部 20 a と略平行に形成し、前・後の溝壁 40, 41 と底面 42 とで構成し、後溝壁 41 に湾曲状の凹部 43 を形成したものである。

指掛け溝 26 は、指が掛けやすいように溝幅を W2 に形成し、さらに後溝壁 41 に湾曲状の凹部 43 を形成することで、艇体 11 の後方、すなわちデッキ 20 の後端部 20 a から手を延ばして指掛け溝 26 に指を掛けることがより一層容易

になる。

【0026】

指掛け溝 26 の左端 26 a から斜面部 24 の左端 24 b に沿って後平坦部 22 に向けて左側斜め溝部 45 が後方に延びている。また、指掛け溝 26 の右端 26 b から斜面部 24 の右端 24 c に沿って後平坦部 22 に向けて右側斜め溝部 46 が後方に延びている。

【0027】

図 3 は本発明に係る小型水上艇の要部を示す断面図である。

指掛け溝 26 は、溝の深さを D に形成することにより、指が掛けやすい形状を確保することができる。

また、乗員が水面から乗船するために必要とする指掛け部を溝の形態、すなわち指掛け溝 26 とした。よって、指掛け溝 26 を斜面部 24、すなわちデッキ 20 から突出させないようにできる。このため、乗員がデッキ 20 上を移動するときに指掛け溝 26 が邪魔になることはない。

【0028】

ここで、指掛け溝 26 をデッキ 20 の後端部 20 a 側に寄せて設けることで、指掛け溝 26 とシート 21 の間の間隔を比較的大きく確保することができる。

これにより、デッキ 20 のうちの、指掛け溝 26 とシート 21 との間の部位 47 にメンテナンス用の開口 48 を設けることができる。

【0029】

このメンテナンス用の開口 48 は、デッキ 20 の下方空間 49 に臨み、この開口 48 を利用することによりデッキ 20 の下方空間 49 の機器類（例えば、図 1 に示す排気系機器類 50）のメンテナンスを容易におこなうことができる。

この開口 48 に蓋体 52 を被せる際には、蓋体 52 の前突起 53 を差込部 47 a に差し込み、蓋体 52 の後端 52 a をロック部材 57 で保持することにより開口 48 を密封し、水が開口 48 からデッキ 20 の下方に侵入することを防ぐことができる。

【0030】

なお、ロック部材 57 は支持部材 58 で回動自在に支持され、ロック部材 57

をロック位置に配置することで、蓋体 52 の後端 52 a をロック部材 57 で保持することができる。

一方、ロック部材 57 をアンロック位置に配置することで、ロック部材 57 による蓋体 52 の後端 52 a の保持を解除することができる。

【0031】

蓋体 52 をカバー 27 で覆うとともに、カバー 27 を斜面部 24 と面一に形成し、さらに斜面部 24 と略同じ傾斜でシート 21 に向けて延びるように形成する。

よって、斜面部 24 およびカバー 27 で構成する範囲 H を、後平坦部 22 からシート 21 に向けて上り勾配で延びる連続した傾斜面とすることができる。

これにより、乗員が指掛け溝 26 に指を掛けて水面から後平坦部 22 まで身体を持ち上げた後、後平坦部 22 からカバー 27 に沿ってシート 21 まで身体を容易に移動させることができる。

【0032】

カバー 27 の前端 27 a に係止片（図 5 に示す）54 を形成し、後端 27 b にロックボタン 55 を設けている。係止片 54 をデッキ 20 の係止部（図示せず）に係止するとともに、ロックボタン 55 をデッキ 20 の係止部 56 に係止することで、カバー 27 をデッキ 20 に取り付けて、蓋体 52 を覆うことができる。

【0033】

図 2 に戻って、ロックボタン 55 は、カバー 27 の後端 27 b の左右にそれぞれ回転自在に取り付け、表面 55 a に凸部 55 b を備える。

凸部 55 b を水平に配置した際（図示の状態）には、図 3 に示すようにロックボタン 55 の先端 55 c をデッキ 20 の係止部 56 に係止させることができる。

【0034】

一方、ロックボタン 55 を 90° 回転することにより、凸部 55 b を鉛直に配置すると、図 3 に示すロックボタン 55 の先端 55 c とデッキ 20 の係止部 56 との係止を解除することができる。

【0035】

図 4 は図 2 の 4-4 線断面図である。

指掛け溝 26 の底面 42 のレベル H1 を後平坦部 22 のレベル H2 より高くして、右側斜め溝部 46 の底面 46a を指掛け溝 26 の底面 42 から後平坦部 22 に向けて下り勾配に形成した。

よって、指掛け溝 26 に水が侵入しても、侵入した水を指掛け溝 26 から右側斜め溝部 46 の底面 46a を通して後平坦部 22 まで流すことができる。

【0036】

なお、指掛け溝 26 の左側斜め溝部 45（図 2 参照）も、右側斜め溝部 46 と同様の形状であり、指掛け溝 26 に侵入した水を左側斜め溝部 45 の底面 45a を通して後平坦部 22 まで流すことができる。

【0037】

つぎに、小型水上艇 10 の作用を図 5 ～図 7 に基づいて説明する。

図 5 は本発明に係る小型水上艇の開口を開けて艇体内の機器類をメンテナンスする例を示す説明図である。

ロックボタン 55 を操作してデッキ 20 からカバー 27 を取り外し、ロック部材 57 を矢印のように回転することで、ロック部材 57 をアンロック位置に配置する。

【0038】

この状態で、蓋体 52 の前突起 53 を差込部 47a から抜き出し、蓋体 52 をデッキ 20 から取り外して開口 48 を開けることができる。

開口 48 を利用することによりデッキ 20 の下方空間 49 の機器類（例えば、図 1 に示す排気系機器類 50）のメンテナンスを手間を掛けずに短い時間でおこなうことができる。

【0039】

図 6 は本発明に係る小型水上艇の指掛け溝に水が侵入した例を示す説明図である。

指掛け溝 26 の底面 42 のレベル H1（図 4 参照）を後平坦部 22 のレベル H2（図 4 参照）より高くして、左右側の斜め溝部 45，46 の底面 45a，46a（図 4 参照）をそれぞれ指掛け溝 26 の底面 42 から後平坦部 22 に向けて下り勾配に形成した。

【0040】

よって、指掛け溝 26 に水が侵入しても、侵入した水を指掛け溝 26 から左右側の斜め溝部 45、46 の底面 45a、46a を通して後平坦部 22 まで矢印の如く流すことができる。

これにより、指掛け溝 26 からの排水を促すことができ、指掛け溝 26 に水が溜まることを防止することができる。

【0041】

図 7 (a), (b) は本発明に係る小型水上艇の指掛け溝に指を掛けて乗員の身体をデッキに持ち上げる例を示す説明図である。

(a) において、略水平に延びる後平坦部 22 をデッキ 20 の後端部 20a に設けることができ、後平坦部 22 から前方に延びる斜面部 24 の前端部 24a に指掛け溝 26 を設けた。

【0042】

このように、指掛け溝 22 を後平坦部 22 に寄せて形成することで、指掛け溝 22 を水面 61 ((b) 参照) に比較的近い位置に指掛け溝 26 を設けることができる。

よって、乗員 60 は艇体後方の水面 61 から手 62 を延ばして指掛け溝 26 に簡単に指 63 を掛けることができる。

【0043】

(b) において、指掛け溝 26 に指 63 を掛けた後、後平坦部 22 を利用して乗員 60 は水面 61 から身体 64 を簡単にデッキ 20 に持ち上げることができる。

さらに、カバー 27 を斜面部 24 と面一に形成し、さらに斜面部 24 と略同じ傾斜でシート 21 に向けて延びるように形成した(図 3 参照)。よって、乗員 60 が後平坦部 22 まで身体 64 を持ち上げた後、後平坦部 22 からカバー 27 に沿って身体 64 をシート 21 まで容易に移動させることができる。

これにより、乗員 60 は比較的簡単に水面 61 から小型水上艇 10 に乗船することができる。

【0044】

なお、前記実施形態では、指掛け溝 26 の底面 42 のレベル H1 を後平坦部 22 のレベル H2 より高くして、左右側の斜め溝部 45, 46 の底面 45a, 46a をそれぞれ指掛け溝 26 の底面 42 から後平坦部 22 に向けて下り勾配に形成した例について説明したが、これに限らないで、指掛け溝 26 の底面 42 のレベルを後平坦部 22 のレベルと同一としてもよい。

この場合も、指掛け溝 26 に侵入した水を左右側の斜め溝部 45, 46 を通して後平坦部 22 まで矢印の如く流すことができる。

【0045】

また、前記実施形態では、指掛け溝 26 の後溝壁 41 に凹部 43 を形成した例について説明したが、凹部 43 を設けなくてもよい。

さらに、前記実施形態では、指掛け溝 26 の左右端 26a, 26b にそれぞれ左右側の斜め溝部 45, 46 を形成した例について説明したが、これに限らないで、指掛け溝 26 の左右端 26a, 26b に左右側の斜め溝部 45, 46 を形成しなくてもよい。

【0046】

また、指掛け溝 26 の形状を水平に延ばした例について説明したが、指掛け溝 26 の形状は任意に決めることができる。

さらに、前記実施形態では、後平坦部 22 および左右の平坦部 36, 37 の平坦幅 W1 を略一定に形成した例について説明したが、後平坦部 22 の平坦幅を左右の平坦部 36, 37 の平坦幅と異ならせることも可能である。

【0047】

【発明の効果】

本発明は上記構成により次の効果を発揮する。

請求項 1 は、デッキの後端部に略水平に延びる平坦部を設け、平坦部から前方に延びる斜面部の途中に指掛け溝を設けた。よって、指掛け溝を水面に比較的近い位置に設けることができる。

【0048】

このように、デッキの後端部に平坦部を形成し、水面に比較的近い位置に指掛け溝を形成したので、乗員は艇体後方の水面から手を延ばして指掛け溝に簡単に

指を掛けることができる。

そして、指掛け溝に指を掛けた後、デッキ後方の平坦部を利用して水面から身体をデッキに簡単に持ち上げることができる。

【0049】

さらに、乗員が指を掛けるための指掛け部を溝の形態としたので、指掛け溝をデッキから上方に突出させないようにできる。このため、乗員がデッキ上を移動する際に指掛け溝が乗員の邪魔になることはない。

加えて、指掛け溝を斜面部に一体形成したので、部品点数を減らすことができる。さらに部品点数を減らすことで製造工程の簡素化を図ることができる。

【0050】

請求項2は、指掛け溝の底面のレベルを平坦部と同一もしくは高くして、指掛け溝の両端を平坦部まで延長した。よって、指掛け溝に水が侵入しても、侵入した水を指掛け溝の両端から平坦部まで流すことができる。これにより、指掛け溝からの排水を促すことができ、指掛け溝に水が溜まることを防止することができる。

【0051】

請求項3は、指掛け溝より上方の部位をカバーで構成することにより、斜面部およびカバーを、平坦部からシートに向けて上り勾配で延びる連続した傾斜面とすることができる。

これにより、乗員が指掛け溝に指を掛けて水面から平坦部まで身体を持ち上げた後、平坦部からカバーに沿ってシートまで身体を容易に移動させることができるので、乗員は水面から小型水上艇に簡単に乗船することができる。

【0052】

また、カバーの下方にデッキの下方空間へ通じる開口を設けたので、この開口を利用することによりデッキの下方空間に配置した機器類のメンテナンスを手間を掛けずに簡単におこなうことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明に係る小型水上艇を示す側面図

【図 2】

本発明に係る小型水上艇の要部を示す斜視図

【図 3】

本発明に係る小型水上艇の要部を示す断面図

【図 4】

図 2 の 4 - 4 線断面図

【図 5】

本発明に係る小型水上艇の開口を開けて艇体内の機器類をメンテナンスする例を示す説明図

【図 6】

本発明に係る小型水上艇の指掛け溝に水が侵入した例を示す説明図

【図 7】

本発明に係る小型水上艇の指掛け溝に指を掛けて乗員の身体をデッキに持ち上げる例を示す説明図

【図 8】

従来的小型水上艇を示す側面図

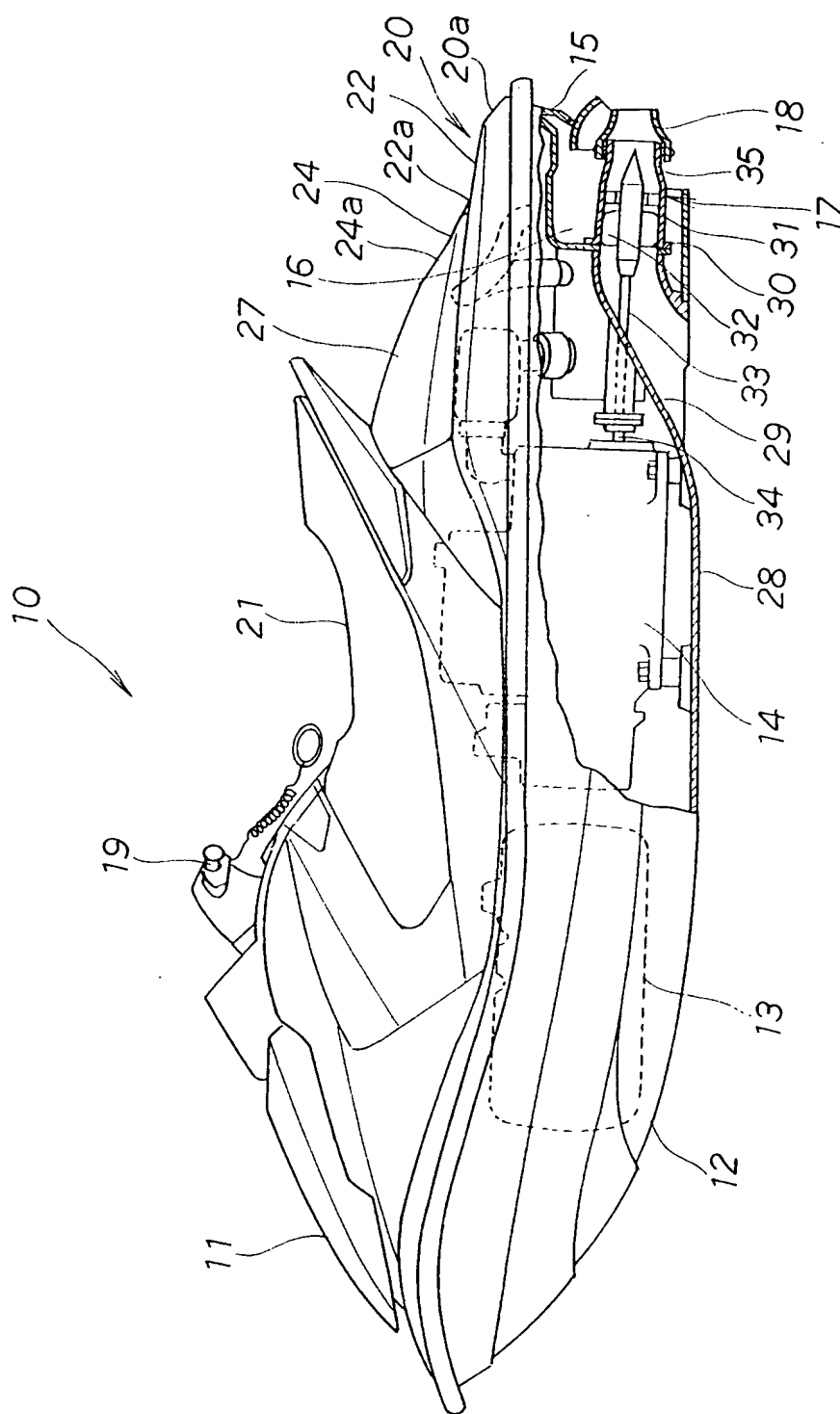
【符号の説明】

1 0 …小型水上艇、1 1 …艇体、2 0 …デッキ、2 0 a …デッキの後端部、2 1 …シート、2 2 …後平坦部（平坦部）、2 2 a …後平坦部の前端、2 4 …斜面部、2 4 a …斜面部の前端部、2 6 …指掛け溝、2 7 …カバー、4 2 …指掛け溝の底面、4 5 …左側斜め溝部、4 6 …右側斜め溝部、4 8 …開口、4 9 …デッキの下方空間、6 2 …手、6 3 …指。

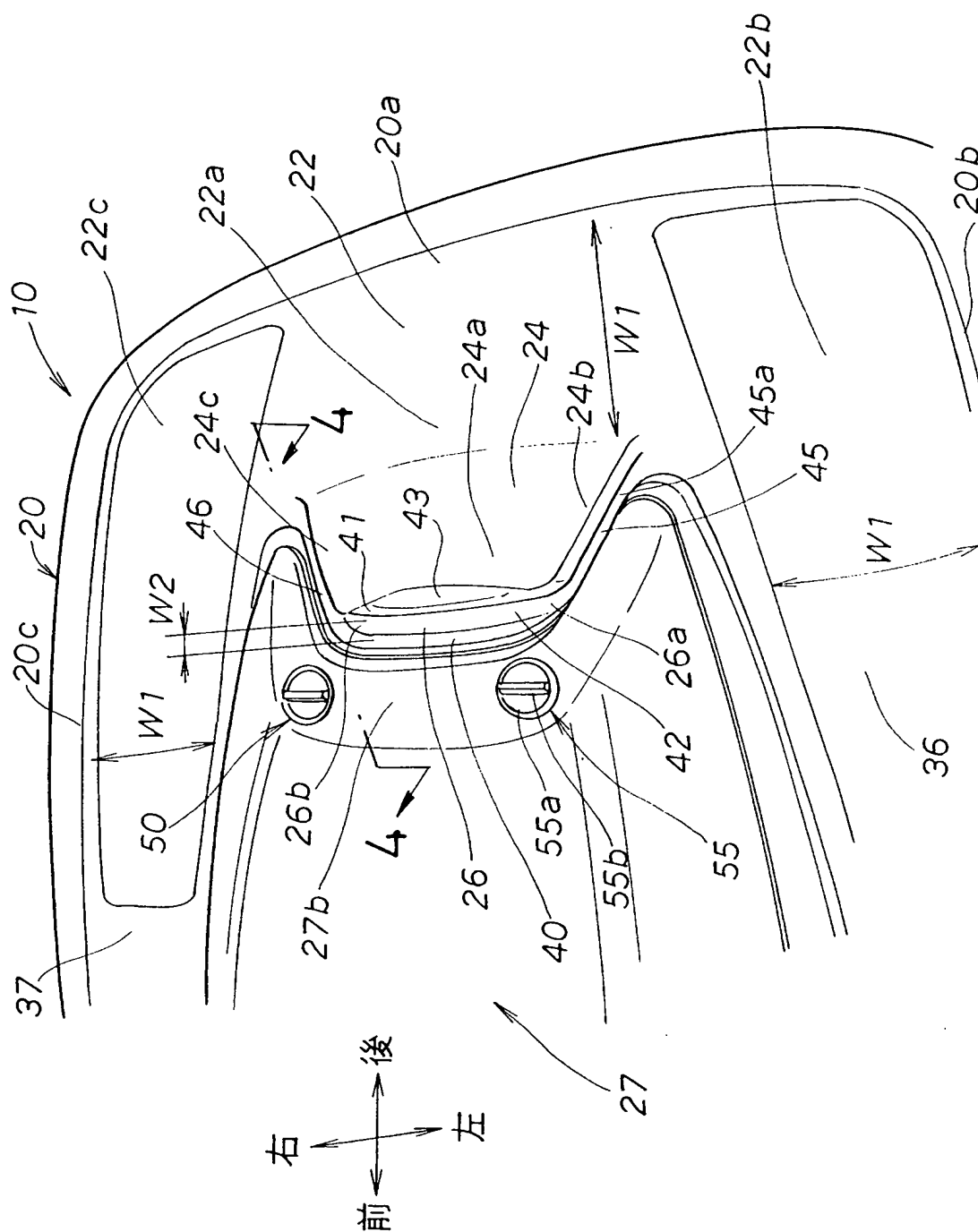
【書類名】

図面

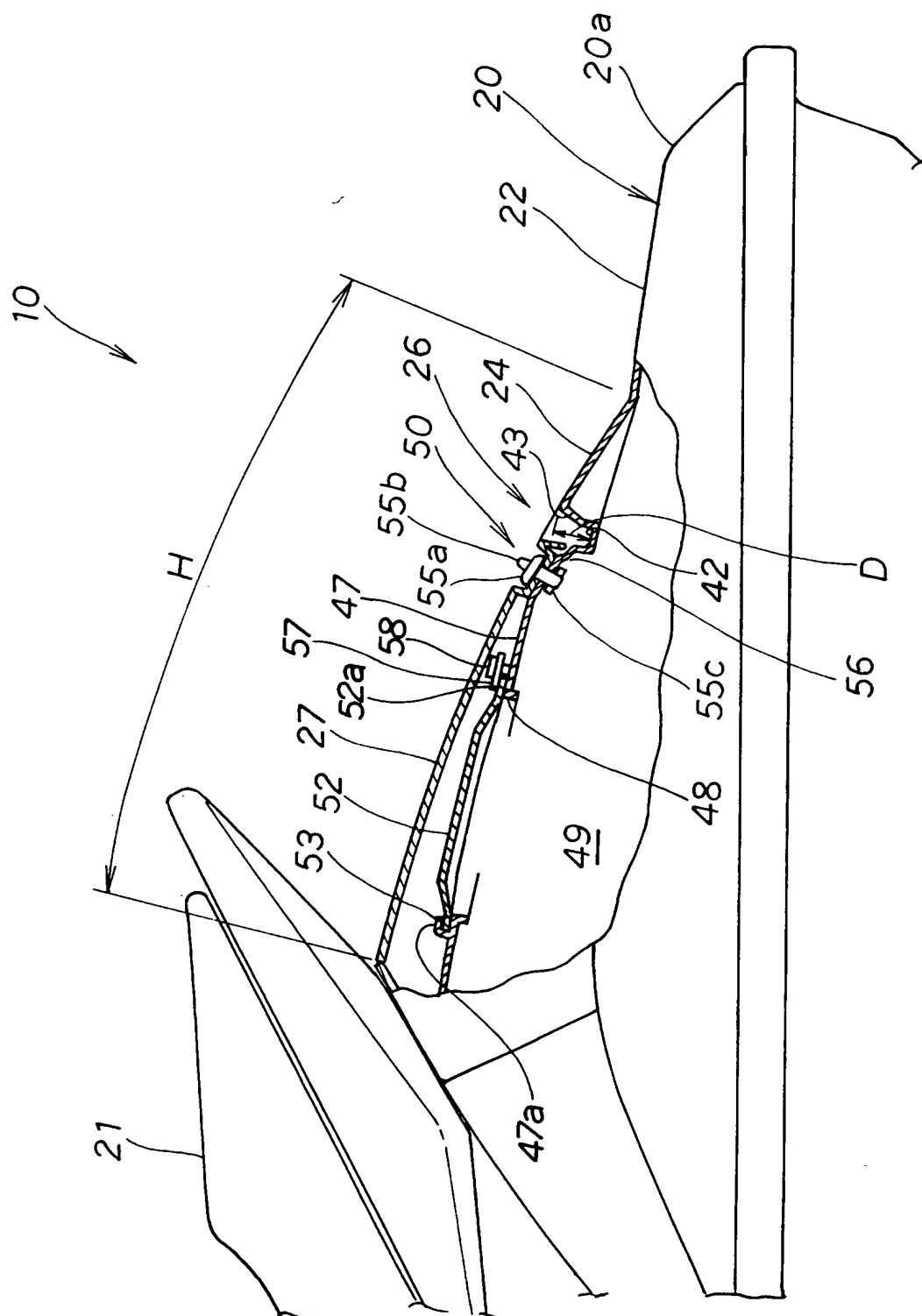
【図 1】



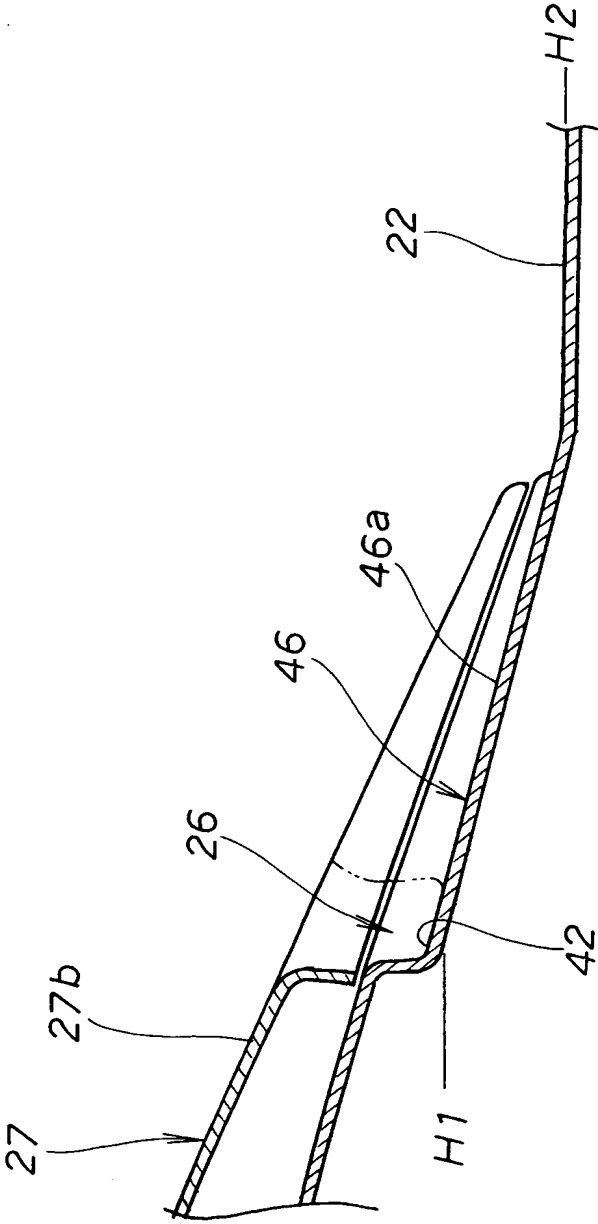
【図 2】



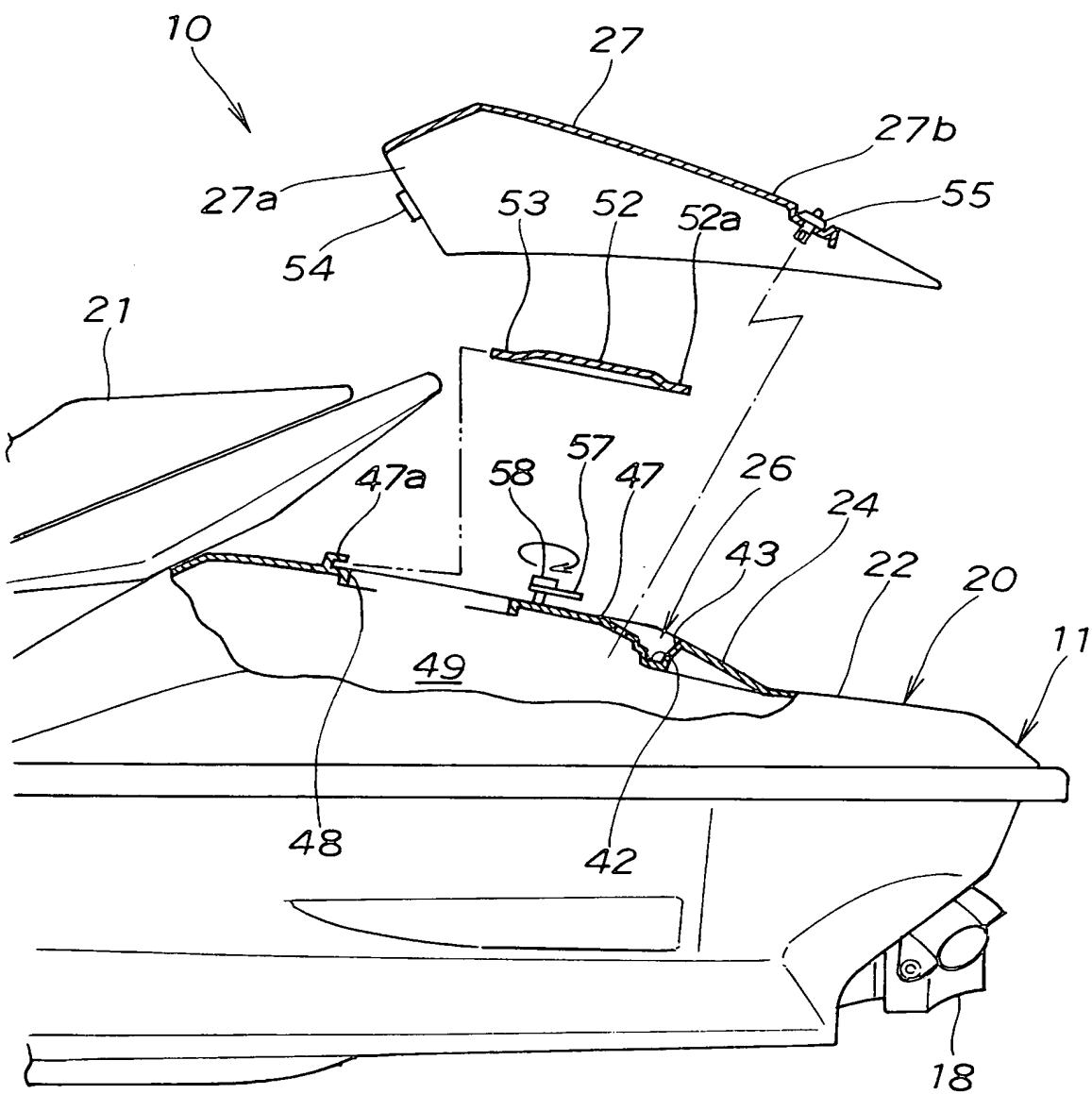
【図 3】



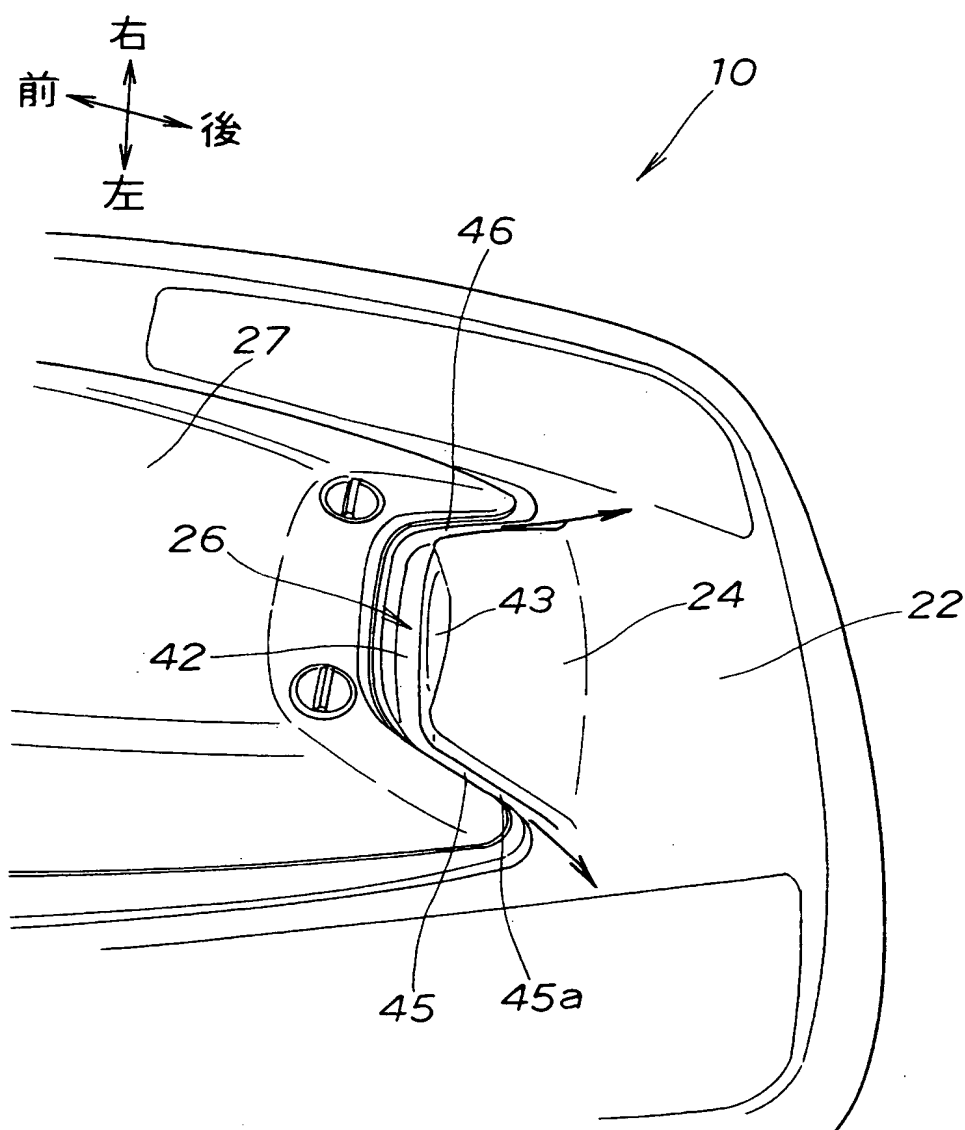
【図 4】



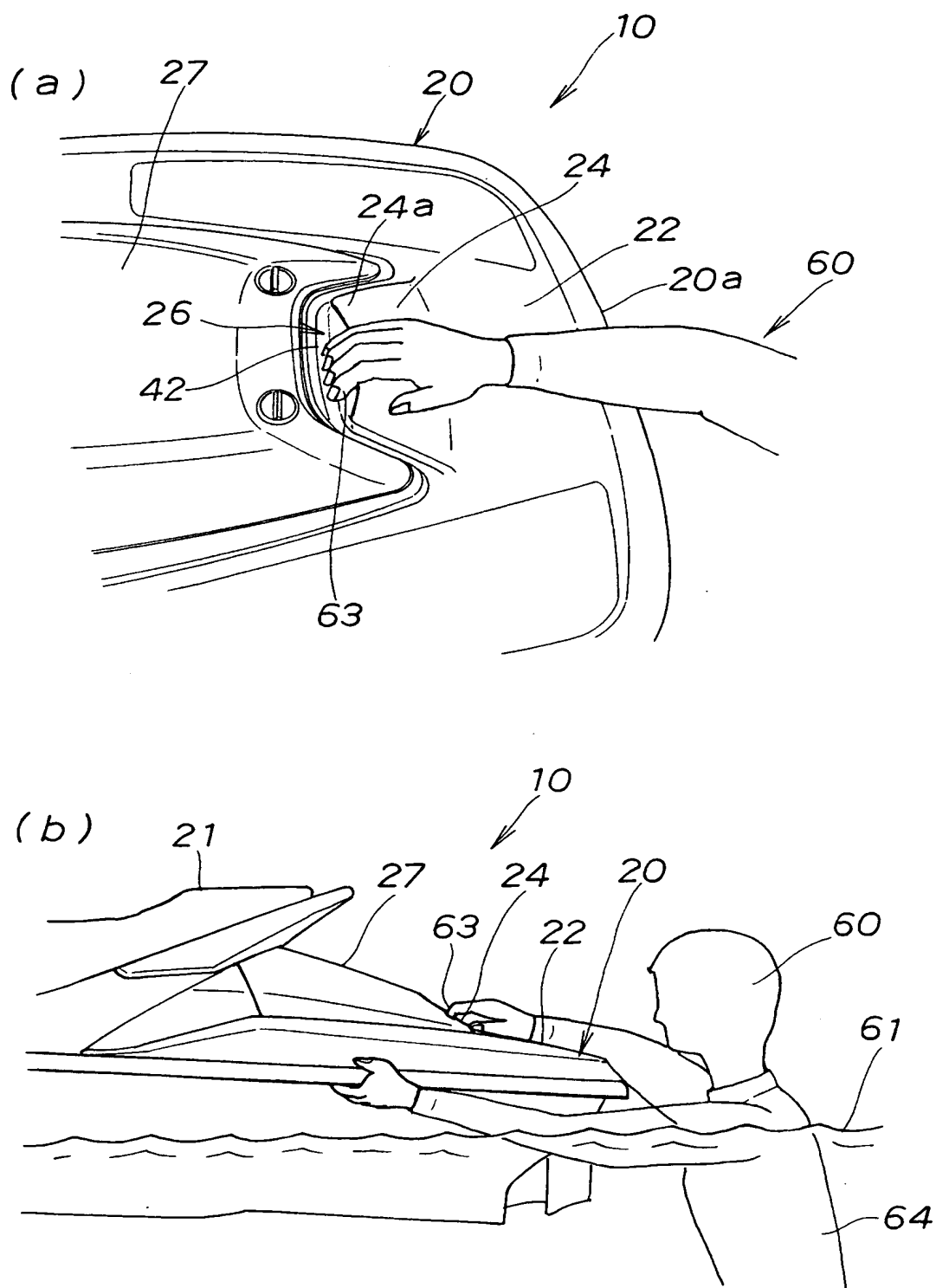
【図 5】



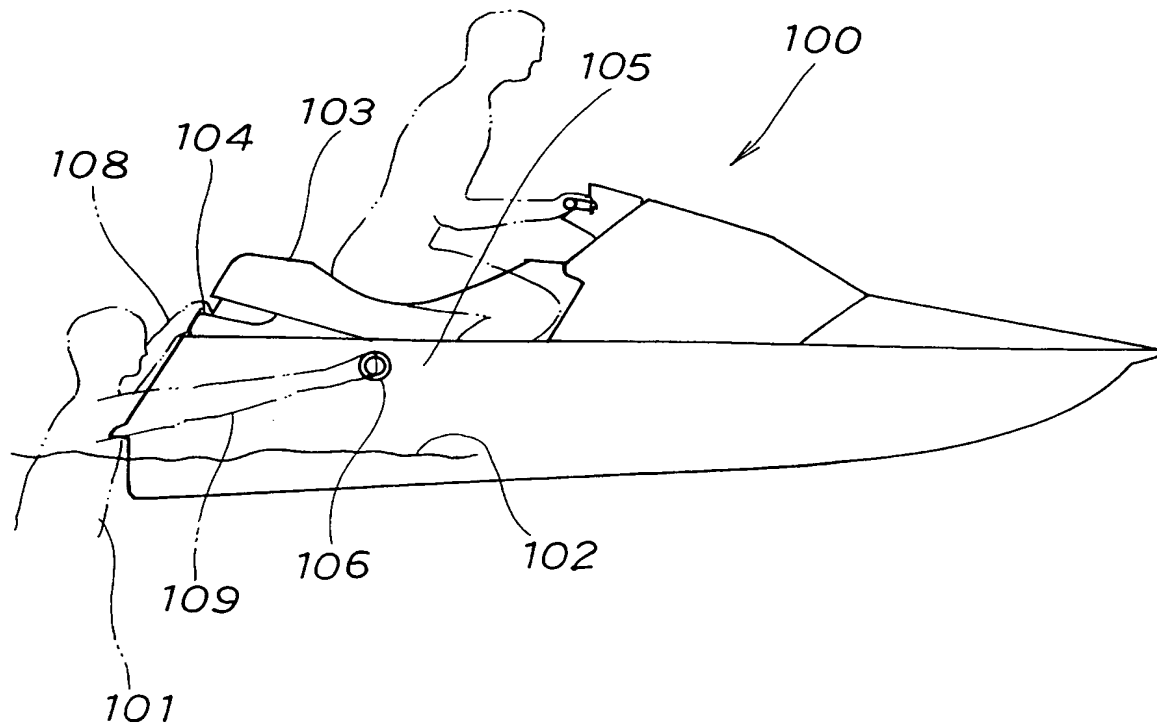
【図 6】



【図 7】



【図 8】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 乗員が水面から簡単に乗船することができ、さらに乗員の邪魔になることがなく、加えて部品点数を減らすことができる小型水上艇を提供する。

【解決手段】 小型水上艇 10 は、艇体 11 上面を構成するデッキ 20 の中央に前後に延びるシート 21 を設け、このシート 21 の後方で、かつデッキ 20 の後端部 20 a に略水平な平坦部 22 を設けるとともに、平坦部 22 の前端 22 a から前方に向けて上り勾配に斜面部 24 を形成し、斜面部 24 の前端 24 a に、艇体 11 の後方から手 62 を延ばして指 63 を掛けることのできる指掛け溝 26 を一体形成したものである。

【選択図】 図 2

特願 2 0 0 2 - 2 6 4 9 6 7

出 願 人 履 歷 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 5 3 2 6]

1. 変更年月日

1 9 9 0 年 9 月 6 日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都港区南青山二丁目 1 番 1 号

氏 名

本田技研工業株式会社